未知の領域に「知」を積み上げる ～ 情報通信研究の魅力

和泉順子 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教)

仕事内容とおもしろいところについて

大学院で研究室の助教として教育や学会活動に携わる一方で、インターネット上に流通するセンサ等の実空間情報の制御手法とプライバシー保護技術に関する研究をしています。研究内容はビジネスモデルや国内外の法規・法令、国際標準等への対応などにも関連するため、他分野・他業種の方々とも意見交換しながら進めます。今後どうやって行くのかまだ誰も知らないことを、多くの人と関わりながら議論して積み上げていくところに魅力を感じています。

私の進路決定のきっかけ

高校生の時は古文や歴史も好きだったのですが、数学の解法が面白かったため、大学は理系学科に進みました。在学中に、生活を支える高度な計算機技術や暗号解読器の開発に関わる数学者が描かれた本を読んだことから情報科学分野に興味を抱き、計算機と通信技術の講義を担当されていた非常勤講師の本務校に進学。大学院では家族の理解と先進的で充実した研究教育環境、良い友人に恵まれたため研究を継続し、ご指導いただいた先生や先輩達と一緒に仕事ができる大学教員という職を選択しました。

仕事と家庭のバランスについて

一人暮らしの大学院生という最も気ままな生活を送った直後に結婚。自分のことだけを考えていれば良かった生活が一変しましたが、互いの認識や得手不得手を話し合い、大まかなルールが出来ました。考え方や仕事環境が違いから多少の認識のズレが生じるのは当然なので、”仕事も家庭内のことも協力するし困った時には助け合うけど、互いに依存しすぎない”というバランスを保つ努力をしています。そのためには、相手や周囲に迷惑や心配をかけない程度に、深く干渉しない部分を互いに認めることも必要だと思っています。

進路選択についてのメッセージ

目標があっても、そこにたどり着くまでの道は複数あります。解も一つではありません。効率重視で最短距離を突き進む人もいるし、いろいろ寄り道して視野を広めながらゆとり歩む人もいます。途中で目標が変わることだってあります。出来る事だけをするのではなく、若いうちは多少の無理をして色々なことを頑張ってみてください。力が足りなくて苦しんでも、とにかく精一杯頑張ったという経験は、その後の自信と、他人に対する配慮や優しさにつながるものだと思います。

<和泉順子 (いずみみちこ) プロフィール>

1998年 津田塾大学 学芸学部 数学科 卒業
 2000年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程 修了、博士後期課程 進学
 2001年 慶應義塾大学大学院附属 SFC研究所 嘱託/訪問研究員(至 2003年3月)
 2002年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科21世紀COE奨励研究員(至 2003年3月)
 2003年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 研究員(至 2005年2月)
 結婚、博士(工学)取得
 2005年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助手(至 2007年3月)
 2007年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教
 2006年～ 非常勤講師として津田塾大学、東京女子大学の一部講義を担当
 情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、ISOC、WIDEプロジェクト等に所属。経済産業省H.19～21
 基準認証研究開発事業「プローブ情報システムにおける匿名性・セキュリティ評価委員会」委員 他